

Basic Encounter Group参加者の所感の分類（Ⅱ） ーファシリテーターについてー

松 浦 光 和
清 水 幹 夫（法政大学）

要 約

この研究は、Basic Encounter Groupの参加メンバーが、グループの中でファシリテーターをどのように感じているかを把握することが目的である。

1999年に男性3人、女性5人の計8人、年齢は20歳代から60歳代、職業は学生、教諭、保健師、カウンセラーからなるメンバーで実施された3泊4日9セッションのBasic Encounter Groupでメンバーがグループのファシリテーターについて感じることを書いた「所感」を2012年に190名の大学生が評価スケールによって評価した。その評価について因子分析を実施した結果、メンバーはファシリテーターに対して、「信頼できる」、「正直」、「安心できる」、「安定している」、「精神的に近い」と感じていることが分かった。

はじめに

基本的出会いグループ（Basic Encounter Group：以下でBEG）とは、Rogersの理論と実践に基づくグループを指す。BEGは「経験の過程を通して、個人の成長、個人間のコミュニケーション及び対人関係の発展と改善の促進を図る」ための集中的グループ経験の一つ（Rogers, 1970）とされている。BEGの過程は「グループ過程」と「個人過程」に分けられるが、「グループ過程」とはグループ全体の発達、参加メンバー（以降で、メンバー）間の相互作用や関係の変容の過程であり「個人過程」は「グループ過程」に伴って生起するメンバー個人の「経験」の過程を指す。BEGには「ファシリテーター」という世話人が存在する。ファシリテーターについての認知過程は「個人過程」の一つである。

ファシリテーターの役割について小野（2005）は「自由の保障」、「メンバー達の感情的同動揺の防波堤」、「コミュニケーションの正確性確保」、「援助要因の有効化」を上げている。メンバーのファシリテーターに対する認知の研究は、野島（1983）、松浦・清水（1999）、松浦（2007）などがあるが、極めて少ない。

I. 目的

BEGの「個人過程」を構成する「対ファシリテーター認知」を検討するために、メンバーが自身のグループのファシリテーターについて記した文章（以降で「所感」とする）を第三者の評価によって分類する。

II. 方法

1) BEGの実施および所感の収集

(1) 実施時期：1999年10月29日(金)から11月1日(月)

(2) 実施方法：関東圏H市に於いて3泊4日で9セッションのBEGを実施した（スケジュールをTable 1に記載）。このBEGのファシリテーターはI氏（男性、50歳代）、コ・ファシリテーターはN氏（女性、30歳代）であった。ファシリテーター歴はI氏が20年以上、N氏はなかった。

(3) BEGの参加メンバー：メンバーは男性3人、女性5人の計8人。年齢は20歳代から60歳代、職業は学生、教諭、保健婦、カウンセラー（Table 2）。

(4) 所感の収集：各セッション終了時に、メンバーに記入用紙を配付して、「今のセッションのファシリテーターについて感じたことを率直・簡潔に記入してください」と依頼した。記入の可否・文字数は任意。回収は、全セッション終了後に行い、BEGの途中でファシリテーターが記入された内容を読まないように配慮した。

月 日	曜日	～9時	9時～12時	12時～14時	14時～17時	17時～19時	19時～22時
10月29日	金			受付・オリエンテーション	第1セッション	夕食・入浴など	第2セッション
10月30日	土	起床・朝食など	第3セッション	昼食など	第4セッション	夕食・入浴など	第5セッション
10月31日	日	起床・朝食など	第6セッション	昼食など	第7セッション	夕食・入浴など	第8セッション
11月1日	月	起床・朝食など	第9セッション	昼食・ふり取り・解散			

No.	性別	年齢	職業
1	女	24	学生
2	女	28	教諭
3	女	30	教諭
4	女	36	保健婦
5	男	38	教諭
6	女	42	教諭
7	男	44	教諭
8	男	63	カウンセラー

年齢：参加当時（1999年）の満年齢

2) 所感リストの作成

- (1) リスト作成：収集した所感を参加メンバーごとに、セッション順に転記した。
- (2) ダミーの付加：所感評価者の信頼性を検討するために、2つの所感とそれぞれに対応する2つのダミーを準備した。ダミーは所感と同文である。使用する所感の選択には乱数表を用いた。
- (3) 所感の並べ替え：評価時に順序効果が出現しないように、全所感とダミーを乱数によって並べ替えた。

3) 所感の評価

- (1) 所感評価の時期：2012年10月。
- (2) 所感の評価者：M大学103名（女子）、T大学40名（女子18名、男子22名）、A大学61名（女子42名、男子18名、性別無回答1名）、H大学大学院28名（女子22名、男子6名）。計232名（Table 3）。
- (3) 評価の方法：評価者に「所感の記入者（メンバー）はファシリテーターをどのように感じていたのかを推測して回答してください」と依頼し、所感を並べ替えたリストと評価用紙を配付した。評価者は、各所感について「とても肯定的」「やや肯定的」「少し肯定的」「どちらとも言えない」「少し否定的」「やや否定的」「とても否定的」の7つの選択肢のいずれかで回答する。
- (4) 評価者の適切性：所感記入者はBEGや臨床心理学の研究者ではなく、所感 は 日常的な平易な文章で記されている。これを上記(2)の評価者が上記(3)の方法で評価することは適切であると判断した。
- (5) 回答の点数化：選択肢の「とても肯定的」を7点、「やや肯定的」を6点、「少し肯定的」を5点、「どちらとも言えない」を4点、「少し否定的」を3点、「やや否定的」を2点、「とても否定的」を1点として評価点をつける。

4) 所感の分類

- (1) 評価者の信頼性の検証：2つの所感とダミーの評価点を比較し、評価点の差が両比較で1点以下の場合のみ、その評価者の評価点を採用し、他は破棄する。
- (2) 所感の分類：上記の作業で残った評価点を因子分析に用いた。1つの因子に高い因子負荷量を示す所感数が3以下で因子解釈が不可能な場合、これらの所感を破棄し、再度、因子分析を行って、因子解釈不可能な因子が1程度になるまで繰り返す。

Ⅲ. 結果

(1) 所感リスト：メンバーは8人でセッション数は9なので、所感数は延べで $8 \times 9 = 72$ になるが、無記入が3あったので、69所感になった。これらに2つのダミーを加えて合計71の所感を提示した。ダミーの1組目は所感17番（とてもよく人の気持ちを引き出してくれるような動きだ）に対応する所感62番、2組目は所感34番（自分の話を真剣に聞いてくれたので、とてもうれしい。いるだけで温かさを感じる）に対応する所感66番である。

各所感の文字数は句読点を含んで9字から119字であり、平均は45字であった。所感文字数の度数分布図をFig.1に示した。

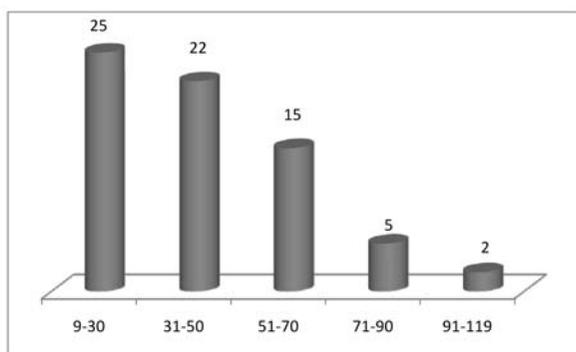


Fig.1 「所感」文字数の度数分布図

(2) 評価者の信頼性：所感17番とダミー（所感62番）の評価点を比較して信頼性検査(1)とし、所感34番とダミー（所感66番）の評価点を比較して信頼性検査(2)としてクロス集計した。その結果、信頼性検査(1)と同(2)の両方が0点の者は70名、信頼性検査(1)が0点で同(2)が1点の者は34名、信頼性検査(1)が1点で同(2)が0点の者は56名、信頼性検査(1)と同(2)の両方が1点の者は30名で合計190名であった (Table 4)。この190名のデータ (Table 4の網掛け部分) を採用し、他のデータを破棄した。190名の所感17番とダミー（所感62番）の相関係数は.657、所感34番とダミー（所感66番）の相関係数値は.703であり、2組の相関を通して評価者の信頼性を大まかに確認した。また、190名の内訳はM大学91名（女子）、T大学31名（女子16名、男子15名）、A大学44名（女子29名、男子14名、性別無回答1名）、H大学院24名（女子19名、男子5名）であった (Table 5)。

(3) 所感の因子分析：第1回目の因子分析の結果、17因子が抽出され、因子寄与率は71.48%であった (Table 6)。高い因子負荷量を示す所感が3つ以下の因子は、第6～17因子であり、因子解釈が不可能であったので、これらの因子に含まれる所感を破棄して (Table 7)、第2回目の因子分析を実施した。

Table 3 所感評定者の所属・性別

	M大学	T大学	A大学	H大学院	合計
女	103	18	42	22	185
男		22	18	6	46
性別無回答			1		1
合計	103	40	61	28	232

Table 4 信頼性検査(1)と同(2)のクロス集計結果

	信頼性検査(2)結果					合計
	差異点	0	1	2	3	
信頼性検査 (1)結果	0	70	34	3	1	108
	1	56	30	10	1	97
	2	12	11	1	0	24
	3	0	1	1	0	2
	6	0	0	0	1	1
合計		138	76	15	3	232

信頼性検査(1): 所感17とダミー(所感62)の比較結果

信頼性検査(2): 所感34とダミー(所感66)の比較結果

網掛の部分を採用し、他を採用しなかった

Table 5 採用された所感評定者の所属・性別

	M大学	T大学	A大学	H大学院	合計
女	91	16	29	19	155
男		15	14	5	34
性別無回答			1		1
合計	91	31	44	24	190

Table 6 第1回目の因子分析結果

「所感」番号	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12	F13	F14	F15	F16	F17	共通性
30	.71	.35	.01	.00	.12	.04	.15	.02	.13	.04	.02	.04	-.04	.03	.07	.05	.04	.69
64	.70	.34	.30	.01	.03	.10	.18	.09	.07	.02	.01	.05	-.03	.04	.10	.03	.12	.77
43	.65	.11	.26	.07	.14	.11	.05	.01	-.10	.29	.08	.10	.15	.16	-.13	.03	.00	.72
42	.64	.15	.16	.37	-.10	.02	-.14	.15	.07	.14	.00	.04	.06	-.01	.06	.05	.09	.69
48	.64	.21	.12	.30	.10	.03	.10	.12	.08	-.02	.34	.02	.07	-.01	-.08	.00	-.12	.74
31	.57	.32	.21	-.04	.12	.26	.19	.10	.06	.07	.20	.09	-.08	.14	-.12	-.06	.14	.72
44	.54	-.07	.09	.16	-.01	.41	.07	.09	.02	.27	.05	.17	.06	.08	-.13	.13	-.03	.66
56	.53	.22	.37	.24	-.02	.12	.08	-.05	.14	-.08	.15	-.12	.05	.13	-.04	.32	.15	.76
34	.52	.37	.34	.13	.10	.17	.11	.06	.21	-.10	.09	.13	-.04	.03	.19	-.05	.12	.72
61	.49	.24	.25	.37	-.04	.24	.17	.12	.08	-.03	-.04	.28	-.01	-.05	-.04	-.12	.10	.72
46	.49	.34	.43	.08	.15	.27	.14	.05	.00	-.01	.07	-.03	-.07	-.08	-.09	.03	.20	.73
40	.47	.08	.29	.18	.33	.04	.05	.15	.35	.04	-.05	.06	-.04	-.08	.00	-.07	.02	.62
8	.41	.40	.08	.18	.08	.04	-.02	.17	.23	.34	.08	-.13	-.15	.14	-.31	-.14	-.01	.76
52	.37	.22	.25	.13	.19	.34	.35	.26	.08	.03	-.03	-.29	.03	-.01	-.03	-.08	.16	.73
19	.18	.67	.06	-.07	.08	.04	.08	.19	.10	-.09	.02	-.07	.00	.29	-.02	-.01	.09	.66
13	.22	.65	.19	.11	.10	-.09	.05	.03	.05	.00	.20	.14	.09	-.03	.06	.05	.13	.64
14	.27	.64	.13	.30	.15	.07	.00	-.08	.20	.08	-.10	-.02	.06	-.16	.00	.00	.01	.71
16	.22	.62	.24	.20	-.02	.23	.12	.02	.13	.09	.04	.20	-.04	.03	.03	.10	.09	.68
17	.27	.61	.24	.31	-.03	.05	.09	.12	.10	.01	.01	.16	.13	-.06	.04	.19	-.09	.72
21	.17	.56	.20	.19	.07	.20	-.02	.09	.01	.27	-.01	-.06	-.10	.22	.11	.07	-.31	.73
15	.23	.54	.27	.27	.11	.20	.09	.07	.12	.27	.01	.05	.15	-.18	-.07	-.12	.15	.74
6	.14	.53	.18	.08	.09	.31	.10	.07	.11	.32	.11	.04	-.10	-.13	-.24	.02	-.05	.67
11	.27	.52	.18	-.05	.37	.08	.22	-.01	-.04	-.08	-.01	-.22	.01	.02	-.21	-.03	.17	.70
25	.21	.50	.17	.14	.10	.39	.19	.14	.16	.11	.10	.07	-.05	.27	-.03	.07	.03	.69
68	.15	.21	.75	.11	.08	.08	-.02	.14	-.04	.14	.02	.10	.06	.08	-.10	.00	.05	.73
70	.41	.21	.67	.20	.10	.05	.03	.00	.08	.02	.11	.05	.07	.07	.01	-.01	-.03	.75
65	.14	.28	.53	.12	.19	.13	.29	-.01	-.14	.03	.01	.39	-.16	-.11	.09	-.05	-.06	.76
69	.21	.24	.53	.31	.02	.13	.20	.19	.21	.10	-.02	.01	-.01	.01	.04	.13	-.10	.66
71	.17	.16	.51	.07	.07	.19	.08	.24	.16	.00	.15	.09	.02	.04	-.17	.20	.14	.58
53	.32	.15	.49	.30	.04	.38	.06	.07	.27	-.03	.16	-.09	.04	-.05	.09	.06	.07	.74
37	.43	.13	.44	.08	.22	.08	.01	.22	.24	.03	-.11	.07	-.06	.15	.04	-.30	.14	.72
67	.37	.31	.43	.10	.03	.02	-.03	.21	.06	.00	.08	.09	.06	.27	-.28	.08	.15	.67
36	.38	.30	.39	.31	.07	-.02	.15	.20	.14	.07	.09	-.17	-.03	-.07	.06	-.23	-.03	.68
59	.15	.19	.30	.72	.13	-.01	.16	.09	-.04	.02	.08	.03	.03	.10	.04	-.04	.21	.79
55	.17	.13	.19	.64	.06	.27	.02	-.06	.09	.31	.06	.05	-.03	.11	.25	.07	.07	.77
54	.07	.05	.09	.58	.19	.48	.08	.11	.05	.08	.25	-.05	.07	.09	-.01	.14	-.01	.75
28	.42	.27	.05	.57	.01	.11	-.26	.15	.17	.05	.06	.22	.01	-.04	.05	.15	-.04	.79
58	.35	.20	.16	.51	.24	.00	-.04	.22	-.13	.17	.12	.22	.03	-.02	-.16	-.11	-.06	.71
23	.01	.03	.16	-.06	.68	.10	.17	.02	.09	.02	.22	-.05	.22	.16	.08	.09	.03	.68
57	.05	.05	.07	.31	.66	-.02	.06	.23	.11	-.04	.00	.03	.15	.13	.04	.14	.29	.76
29	.33	.23	.02	.16	.58	.21	.00	.05	.06	.24	-.03	.12	-.11	.14	.15	-.06	-.01	.70
22	.07	.25	.10	.11	.55	.05	-.04	.24	.18	.12	.31	.06	.25	.10	.14	.02	-.19	.72
24	.20	.33	.19	-.17	.01	.61	-.05	.01	.06	-.10	.01	.01	.27	.10	.02	.00	.06	.68
45	.31	.18	.31	-.02	.24	.51	-.02	.03	.05	.13	.10	-.16	.05	-.11	.02	-.12	.24	.69
60	.05	.16	.05	.31	.40	.46	.14	.23	-.14	-.08	.16	.28	-.10	-.10	-.15	.13	-.03	.76
7	.23	.16	.16	.06	-.05	-.02	.68	.18	.10	.05	.10	.11	-.07	.15	.05	.06	-.02	.68
5	-.01	.09	-.09	.12	.21	.05	.67	.00	.43	.04	-.01	.06	.17	.05	.01	-.04	.05	.75
20	.21	.40	.25	-.17	.25	.15	.52	.19	.01	.06	-.10	-.13	-.10	.16	-.10	.10	.06	.78
38	.14	.11	.18	.18	.20	.12	.11	.71	.16	.06	.04	.09	-.02	.01	.08	-.01	.08	.72
39	.23	.11	.27	.08	.14	.00	.31	.67	-.01	.16	.03	.01	.11	.11	-.06	.22	.09	.81
35	.21	.20	.19	.11	.35	.23	-.07	.41	.30	.10	.20	.21	-.07	.08	.09	-.19	-.03	.73
3	.16	.10	.13	.05	.19	-.01	.14	.17	.67	.02	.04	.03	.11	-.02	-.24	.23	.02	.71
2	-.09	.31	.06	.00	.02	.08	.17	.02	.66	-.02	.13	.02	.02	.14	.08	-.08	.03	.63
9	.11	.09	.06	.15	.08	-.01	.05	.10	-.02	.79	.06	.12	.08	-.09	.08	.07	.05	.74
32	.35	.21	.11	.06	.02	.05	.24	.13	.00	.42	.28	.20	.07	-.08	.16	.09	.32	.70
47	.11	.01	.06	.11	.14	.12	.04	-.02	.13	.12	.81	.02	.01	.01	.02	.02	.10	.76
49	.41	.22	.16	.16	.13	.03	-.06	.32	-.12	-.06	.51	.14	-.04	-.16	.09	.09	-.01	.72
50	.10	.03	.13	.32	.25	-.04	.36	.10	.06	.05	.36	.06	.21	.13	.06	-.34	-.25	.72
63	.19	.06	.13	.09	.05	-.02	.07	.10	.07	.17	.05	.79	.12	.08	.05	.03	.08	.77
12	.12	.21	.07	.03	.22	.16	-.06	.02	.15	-.05	-.02	.04	.72	.19	.10	-.03	.01	.73
18	-.05	-.24	.07	.09	.29	.00	.22	-.13	.03	.27	.06	.09	.56	-.27	-.05	.17	-.03	.73
41	-.27	-.13	-.22	-.06	-.09	-.05	.00	.30	.22	.08	.08	.48	-.10	.22	-.18	-.10	.72	
1	.05	.02	.06	.09	.24	.02	.18	.02	.06	-.09	-.04	.06	.05	.72	.03	.01	.05	.65
51	.22	.14	.32	.34	.19	.11	.10	.10	.21	.10	.17	-.02	.04	.36	.22	-.19	.05	.65
33	.06	.03	-.04	.17	.33	-.03	.10	.18	-.03	.17	.14	.09	.16	.07	.65	.07	.07	.71
4	.22	.36	.21	-.09	-.05	.07	.29	.18	.23	.08	.12	.02	-.04	-.03	-.43	-.11	.17	.66
10	.12	.23	.13	.11	.33	.05	.06	.18	.11	.23	.07	.07	-.01	.00	.18	.65	-.06	.78
26	.27	.18	.19	.26	.14	.22	.13	.19	.08	.11	.08	.02	-.12	.16	-.04	-.05	.53	.68
27	.28	.24	.10	.24	.17	.13	-.16	.12	.08	.26	.16	.28	.00	.17	.10	.01	.45	.71
因子分散	7.32	6.26	4.85	4.00	3.39	2.65	2.55	2.44	2.30	2.11	1.96	1.77	1.69	1.62	1.55	1.43	1.43	49.32
因子寄与率(%)	10.60	9.08	7.02	5.80	4.91	3.83	3.70	3.54	3.33	3.06	2.85	2.57	2.45	2.35	2.25	2.08	2.07	71.48

Table 7 第1回目の因子分析で破棄した「所感」

因子	番号	所感
F6	24	休憩時間の姿が愛らしかった
	45	出会えてよかった。
	60	その時その時のあるがままの姿。今、今、今。
F7	7	うまくいくことを念頭に置いているのではなく、「感じ」を伝えてくれるのでとても分かるような気がする ことが多い。回を重ねるごとに親しみが大きくなる
	5	上手ではない表現が、私にはとても分かりやすく伝わるが、それがどこからくるのか、今回聞いてやんわり と感じられた。
	20	私の一番辛い部分に最終的にきちんと触れてもらえて嬉しい。その際に私の中に瞬間的に湧いた怒りを彼に 向かった攻撃としてではなく、私の中の怒りとして動じず見つけ返されたことが何より嬉しい。
F8	38	私と表現法が似ていると感じたが、本人は違うと言って、私のを「いいなあと思う」と言ってきて驚いた。 嬉しい言葉は「大切に」「資質」だった。
	39	OOYさんの最後の発言についての指摘はとても大事な押さえであったと思う。TKMさんがに対する初めの あまりよくない印象を話した時に「言いにくいことを話しましたね」と、内容ではなくそれを話した人の今 の気持ちを押さえたところはさすがだと思った。
	35	共感するときにテンションがあがることがあるんだと思った。大きな声でうなずき、表情が安心させてくれ た。
F9	3	ゆったりとしたいい感じでホッとした。敏感な反応をする。
	2	疲れていながら、しっかりと落ち着いてすごよかった。
F10	9	自分の質問が相手の心に届いたかどうかを確認したところはよかった。
	32	最後の方でTKMさんの切なさに触れた質問は良かった。そのことで、本人は自分の一番中心の問題を再認識 することができたので
F11	47	気持ちに「気づいてただよ」ところに敏感な気がする。
	49	皆の話を深いところで聞いてくれ、それを通して自分の意見を話す。正直。
	50	「わからない」と言い続けてくれたところが、行きつくところにとっても近い感じだった。
F12	63	話し方にホッとしてしまったところがあった。
F13	12	何だか分からないが、すごいと思った。
	18	この人も人の話を理解できないところがあるんだと思ったら、普通の人だった。
	41	言葉足らずで何を言おうとしているのか分かりにくかった。
F14	1	TKMさんの気持ちに鋭く触れたところはすごさを感じた。何を考えているかは分からない表情の中に深さ がある。
	51	今起きていることに対して表情が分かりやすく変わったり話もしたりするので、何か伝わってくるというか、 いい感じ。
F15	33	あまり発言はなかったが、時々メンバーの発言を的確に受け止めているところがあった。
	4	自分のことを短い間で分かってもらえ、受け止めてくれていたという実感があった。
F16	10	割と無口かなと思っていたが、話をきちんと聞いて最後にドキッとすることを言ったのが印象的。
F17	26	Sense of Humorの持ち主。
	27	緊迫した雰囲気の時、軽い話をしてくれ息を抜かせてくれたのはありがたかった。思っていること感じたこ とを言ってくれるのは、ありがたい。

Table 8 第2回目の因子分析結果

項目番号	因子名	所感	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	共通性
68	信頼できる	私が本当に言いたかったことを話すチャンスくれた。	.763	.144	.206	.097	.091	.093	-.097	.682
70		力強いものを感じた。頼もしかった。	.670	.369	.182	.225	.141	.062	.036	-.694
69		どんなことにも返してくれる(表情も含めて)のは、私にとって安心。	.649	.144	.279	.294	.081	.062	.074	-.622
71		中々気持ちが伝わってきて、言葉でも表情でもしぐさでも見ていて本当に「ことば」だけじゃないんだと実感できた。	.623	.149	.242	.063	.177	.192	.105	-.552
65		近くにいられるような親しみを覚えるようになった。自分自身のことを話してくれて嬉しかった。	.580	.289	.181	.319	.149	.100	.391	-.740
53		穏やかさの裏に頼りがいのようなものを感じてきた。	.576	.141	.258	.162	.099	.063	.012	.458
46		非常に素直にそのままを受け止めてくれるし、自分からも出してくれる。うなずいてもらって、分かってもらえた気がした。	.505	.451	.311	.077	.081	.210	.195	-.650
67	セッションをうまく支えようとする雰囲気があって良い。特にTKさんの言わんとするところに触れたのはさすがである。	.499	.383	.307	.043	.140	.199	-.229	-.603	
61	温かい。「やはり聞いてくれていたんだ」という実感を感じることが多くあった。	.447	.433	.259	.381	-.002	.148	.146	-.643	
30	正直	非常に今の気持ちをつかむのがうまい。自分に正直で好感が持てる。	.923	.728	.341	.068	.082	.175	.103	-.699
64		表現の仕方がとても好き。言葉と気持ちが一致しているようで、聞いていて気持ちがよい。回を増すごとにも温かくて、よい印象を受ける。	.384	.664	.326	.078	.046	.150	.110	-.737
42		要領よく進め、自己開示もしていて好感が持った	.223	.597	.131	.466	-.097	.085	-.026	.658
40		常に表情とかでいろいろ伝わってくるので、ほんとに分かりやすいし、なんかとても正直な感じがするのがよい。	.246	.572	.069	.242	.292	-.049	-.053	.542
48		やはり深いところをきとっと押さえていて、すごい。	.254	.571	.232	.334	.152	.188	-.078	.621
34		信頼できる。表情にも言葉にも嘘がない感じがするから。	.303	.546	.362	.008	.162	.400	.089	-.716
31		自分の話を真剣に聞いてくれたので、とてもうれしい。いるだけで温かさを感じる。	.392	.542	.372	.196	.122	.038	.120	-.655
37		各人の心の動きを感じているような気がした。好感が増した。すがすがしい。	.461	.531	.126	.080	.277	.066	.000	.593
43		真剣にメンバーと渡り合う姿勢に傾が下がる。	.352	.484	.153	.179	.127	.447	-.161	-.655
36		優しく、とても正直に関わってくれた。ファシリテーターというよりもグループの人間として響くものがたくさんあった。	.410	.469	.298	.260	.139	-.107	.128	-.592
56	本当に全員の一人一人をちゃんと見ていて、話している人、話の中心になっていない人のことまで、気持ちを拾ってくれている。	.455	.467	.187	.208	.006	.231	.160	-.582	
14	安心できる	とても表情豊かで人間味があり、一緒にいて楽しい。	.143	.324	.648	.318	.038	-.156	.236	.728
21		ところどころでの発言者への支持がとても的確であった。私の質問にも分かりやすく答えてくれた。	.175	.109	.645	.267	.133	.164	-.040	.576
16		同じ視点に立って考えられよう感じ。とても聞いてくれる感じ。	.363	.159	.638	.253	.053	.112	-.003	.644
19		表情豊かだし、にこやかな雰囲気なので親近感もてる。一緒に中に入って発言している感じで、仲間のような近しさ。言葉や表情で常に出してくれるので、安心。	.162	.254	.633	-.151	.208	.064	-.076	.568
17		とてもよく人の気持ちを引き出してくれるような動きだ。	.345	.170	.618	.355	.059	-.024	-.093	.669
13		これまでになく活発で熱い様子を見た。温かさ力強さも感じた。	.276	.305	.597	.147	.112	-.143	-.029	.581
6		しっかりして、どんな場面でもうけられそうに見える。	.271	.056	.584	.139	-.010	.364	.146	-.591
15		バランスといい介入で安心してこちらを出せる感じ	.314	.270	.548	.315	.121	-.017	.247	-.648
25		自分の度々の質問に誠実に答えてもらって信頼感が増した。表情も豊かになり、声の大きさも大きくなってその存在を感じる。	.265	.200	.548	.153	.296	.298	.143	-.631
11		最後に涙を見てジーンとした。この人を信頼しているし、この場所にいられてよかった。	.263	.346	.507	-.199	.267	.035	.230	-.611
8	核心を突いている。皆のことを分かっている。聞いていることを実感。	.086	.438	.485	.163	.110	.288	-.066	.561	
55	安定している	分からないところを尋ねる感じがよかった。	.173	.105	.140	.728	.166	.166	.150	-.668
28		しっかり落ち着いて応答もよく分かる。	.139	.328	.297	.681	-.001	.112	-.100	.701
54		乗れないものは乗れないという感じがはっきり見えて面白い。	.168	.008	.134	.585	.365	.247	.386	-.732
59		もう一人のファシリテーターSさんのことを触れてくれたので、Sさんがこのグループの一員としてちゃんとそこに居ることが確認できた。	.443	.165	.139	.565	.235	-.061	-.034	.622
58		押さえ所をよく見てやっている。自分に、正直にいろいろグループに問われれば出してくれる。	.236	.306	.203	.525	.245	.211	-.301	.662
23	精神的に近い	人の名前を何度も間違っていた。その時に私の近くにいるとホッとすると言われ、嬉しかった。そんなに話もしていない私が、グループの中での存在感を確かめられてような気がした。	.145	.054	.057	-.060	.811	.073	.119	-.709
57		表情は豊かではないが、笑っている時はとても優しい温かいものを感じる。最後の「そう自分が嫌いなんですか、好きなんですか。」という言葉に大切なところはそこだなと思った。	.110	.139	.063	.200	.742	-.065	.039	.631
22		最後に心残りのことを心残りのままに言ったが、それでも十分に伝わるのがあった。	.161	.058	.277	.201	.698	.040	-.196	.673
29		今まで少し「上の人」という感じだったが、このセッションで人間味を感じた。人柄が身近に感じられた。	.014	.334	.275	.249	.486	.230	.193	-.576
44		落ち着いて自己一致した発言をしているように見えた。急所をつかんだ発言が多い。	.213	.282	.050	.304	.023	.676	.063	-.681
52	解釈不可能	独特さにとっても救われた。その存在が私を自由に、好きと言えるきっかけであったように思う。自由さや表現の豊かさや、休み時間にただ黙って私に寄り添ってくれたのがとても心地よかった。	.427	.405	.235	.050	.236	.144	.435	-.671
因子分散			5.833	5.745	5.521	3.804	2.936	1.782	1.204	26.827
因子率(%)		13.889	13.679	13.146	9.057	6.991	4.244	2.868	63.874	

第2回目の因子分析の結果、6因子が抽出され、因子寄与率は62.96%であった (Table 8)。高い因子負荷量を示す所感が3つ以下の因子は、第6因子であるが、因子解釈が不可能なので、これらに含まれる2つの所感を破棄した。解釈不可能な因子が1つになったので、ここで因子分析を終了した。

IV. 考察

第1因子の所感は、「私が本当に言いたかったことを話すチャンスくれた。」(所感68番)、「力強いものを感じた。頼もしかった。」(所感70番)、「どんなことにも返してくれる(表情も含めて)のは、私にとって安心。」(所感69番)、「すごく気持ちが伝わってきて、言葉でも表情でもしぐさでも見ていて本当に『ことば』だけじゃないんだと実感できた。」(所感71番)、「近くにいられるような親しみを覚えるようになった。自分自身のことを話してくれて嬉しかった。」(所感53番)、「穏やかさの裏に頼りがいのようなものを感じてきた。」(所感65番)、「非常に素直にそのままを受け止めてくれるし、自分からも出してくれる。うなずいてもらって、分かっただけでももらった気がした。」(所感46番)、「セッションをうまく支えようとする雰囲気があって良い。特にT・Kさんの言わんとするところに触れたのはさすがである。」(所感67番)、「温かい。『やはり聞いてくれていたんだ』という実感を感じる事が多くあった。」(所感61番)。メンバーがファシリテータを頼っていることを示している。この因子を「信頼できる」と命名する。

第2因子の所感は、「非常に今の気持ちをつかむのがうまい。自分に正直で好感が持てる。」(所感30番)、「表現の仕方がとても好き。言葉と気持ちが一致しているようで、聞いてて気持ちがいい。回を増すごとにとっても温かくて、よい印象を受ける。」(所感64番)、「要領よく進め、自己開示もしてて好感が持てた」(所感42番)、「常に表情とかでいろいろ伝わってくるので、ほんとに分かりやすいし、なんかとっても正直な感じがするのがよい。」(所感40番)、「やはり深いところをきとっと押さえていて、すごい。」(所感48番)、「信頼できる。表情にも言葉にも嘘がない感じがするから。」(所感31番)、「自分の話を真剣に聞いてくれたので、とてもうれしい。いるだけで温かさを感じる。」(所感34番)、「各人の心の動きを感じているような気がした。好感が増した。すがすがしい。」(所感37番)「真剣にメンバーと渡り合う姿勢に頭が下がる。」(所感43番)、「優しく、とても正直に関わってくれた。ファシリテーターというよりもグループの人間として響くものがたくさんあった。」(所感36番)、「本当に全員の一人一人をちゃんと見ていて、話している人、話の中心になっていない人のことまで、気持ちを拾ってくれている。」(所感56番)である。メンバーはファシリテータに嘘がないことを感じている。この因子を「正直」と命名する。

第3因子は、「とても表情豊かで人間味があり、一緒にいて楽しい。」(所感14番)、「ところどころでの発言者への支持がとても的確であった。私の質問にも分かりやすく答えてくれた。」(所感21番)、「同じ視点に立って考えられるような感じ。とても聞いてくれる感じ。」(所感16番)、「表情豊かだし、にこやかな雰囲気なので親近感もてる。一緒に中に入って発言してる感じで、仲間のような近しさ。言葉や表情で常に出してくれるので、安心。」(所感19番)、「とてもよく人の気持ちを引き出してくれるような動きだ。」(所感17番)、「これまでになく活発で熱い様子を見た。温かさで力強さも感じた。」(所感13番)、「しっかりして、どんな場面でもうけられそうに見えた。」(所感6番)、「バランスといい介入で安心してこちらを出せる感じ。」(所感15番)、「自分の度々の質問に誠実に答えてもらって信頼感が増した。表情も豊かになり、声の大きさも大きくなってその存在を感じる。」(所感25番)、「最後に涙を見てジーンとした。この人を信頼しているし、この場所にいられてよかった。」(所感11番)、「核心を突いている。皆のことを分かっている。聞けていることを実感。」(所感8番)である。メンバーはファシリテータといることが楽しかったり、ちゃんと話を聴いてくれているという安心感や仲間の様な近さを感じている。この因子を「安心できる」と命名する。

第4因子は、「分からないところを尋ねる感じがよかった。」(所感55番)、「しっかり落ち着いて応答もよく分かる。」(所感28番)、「乗れないものは乗れないという感じがはっきり見えて面白い。」(所感54番)、「もう一人のファシリテーターSさんのことを触れてくれたので、Sさんがこのグループの一員としてちゃんとそこに居ることが確認できた。」(所感59番)、「押さえ所をよく見てやっている。自分に、いろいろグループに問われれば正直に出してくれる。」(所感58番)。メンバーはファシリテータが落ち着いて対応していることを感じている。この因子を「安定」と命名する。

第5因子は、「人の名前を何度も間違っていた。その時に私の近くにいるとホッとすると言われ、嬉しかった。そんなに話もしていない私が、グループの中での存在感を確かめられたような気がした。」(所感23番)、「表情は豊かではないが、笑っている時はとても優しい温かいものを感じる。最後の「そういう自分が嫌いなんですか。好きなんですか。」という言葉に、大切なところはそこだなと思った。」(所感57番)、「最後に心残りのことを心残りのままに言ったが、それでも十分に伝わった。」(所感22番)、「今までは少し「上の人」という感じだったが、このセッションで人間味を感じた。人柄が身近に感じられた。」(所感29番)。メンバーは、ファシリテータを近くに感じ、核心をついた質問を通して気づきを促し、上の人ではなく近い人だと感じている。この因子を「精神的に近い」と命名する。

第6因子は、解釈不可能であった。

今回、因子分析によって、ファシリテータについての所感を5つに分類することが出来た。すなわち、「信頼できる」「正直」「安心できる」「安定している」「精神的に近い」である。メン

パーがファシリテータに何を感じているのかは、これまで明確に出来なかったが、今回の例を通して、感じていることの一部を推測することが可能になった。

参考文献

- 畠瀬直子・木村易 1988 エンカウンター・グループ 伊藤隆二(編) 心理治療法ハンドブック 福村出版, 182-206.
- Rogers, C.R. 1970 Carl Rogers on encounter groups, New York:Harper and Row. (畠瀬稔・畠瀬直子訳 1982 エンカウンター・グループー人間信頼の原点を求めて 創元社)
- 松浦光和 2005 エンカウンター・グループにおける心理的成長と個人過程の関係 琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学16,21-45.
- 松浦光和 2007 Basic Encounter Groupの「個人過程」に関する実証的な研究 宮城学院女子大学研究論文集, 104, 35-47.
- 松浦光和・坂原明 2013 Basic Encouhter Group 参加者の所感分類 宮城学院女子大学研究論文集, 114, 9-23.
- 松浦光和・清水幹夫 1999 basic encounter groupの個人プロセス調査用尺度の作成 カウンセリング研究, 32, 182-193.
- 松浦光和・清水幹夫 2000 ベーシック・エンカウンター・グループ参加メンバーのグループ認知に関する研究 千葉大学教育実践研究, 7, 185-195.
- 野島一彦 1983 エンカウンター・グループにおける個人過程ー概念化の試みー福岡大学人文論叢, 15,33-54.
- 小野修 2005 不登校児を持つ親のためのエンカウンターグループ 伊藤義美(編) パーソンセンタード・エンカウンターグループ ナカニシヤ出版,138-148.

Classifying the Feelings of Participants in a Basic Encounter Group: Part II, Facilitator

Mitsukazu MATSUURA (Miyagi Gakuin Women's University)

Mikio SHIMIZU (Housei University)

The purpose of this study is to find out how participants in a Basic Encounter Group BEG feel about a facilitator of a group.

In 2012, the 190 students, using an evaluation scale, evaluated how participants felt about the facilitator of a group in a Basic Encounter Group dating back to 1999. This BEG was a three-night, four-day, nine-session occasion in which 8 participants, three male and five female, the age range between 20s and 60s, comprising of students, teachers, public health nurses and counselors, took part. As a result of the factor analysis, “reliable being,” “honest being,” “secure being,” “stable being,” and “mental affinity” were found. These are what participants were experiencing in relation to the facilitator.